



青少年剣道旭川大会で準優勝を果たした幕別剣道少年団。左から青砥君、上村さん、青江さん、西久保君、森脇君

# 幕別少年団

小学校  
低学年

## 準V

### 道内94チーム出場青少年剣道

## 強豪に成長し期待感

【幕別】全道規模の「第43回青少年剣道旭川大会」(旭川剣道連盟主催、会場・旭川大雪アリーナ)の小学校低学年の部(団体戦)で、幕別剣道少年団が準優勝を果たした。同少年団は2004年から同大会に出場し、上位入賞は初めて。選手5人はいずれも小学4年生で、町内の剣道関係者は今後の成長に大きな期待を寄せている。

低学年の部には全道各地から94チームが出場。同少年団は予選で中富良野少年団、三石翔武館、帯広総合体育館を下し、準々決勝で帯広の森体育館剣道部、準決勝では深川剣道スポーツ少年団を破った。決勝では下川剣道スポー

ツ少年団と対戦。2-1で負けたものの、初の決勝戦で見事な戦いぶりを見せた。

チームは上村政義さんを監督に、森脇兼慎君、西久保聖人君、青江実佐さん(以上札幌内南小)、上村穂奈美さん(札幌内北小)、青砥海吾君(白人小)で編成。入学前後から剣道を始めて実力を付け、その成果が最近の大会結果に表れている。6月下旬に足寄町で開催された東北北海道剣道大会で同少年団は、小学校低学年女子、同中学男子でそれぞれ準優勝した。

町剣道連盟の原正満会長は「選手は負けては泣き、負けては泣きの厳しい試練に耐えてきた。今や管内の同学年選手では、一目置かれる存在になった」と話す。

同少年団には27人が入会し、毎週3回、旧相川小と礼内スポーツセンターで練習を重ねている。管内では少子化の影響でチームを組めなくなっている町村もあり、今回のように同学年の選手がそろったのは珍しい。原会長は「中学校では部活がなく、剣道を続

けられる環境」くりが私たちが大人の課題。剣道を通じ、勝つことにおどろす、我慢できる力を持った選手に育ってほしい」と話している。

(平野明)